

学習障害（読み書き障害）が疑われる中学2年生の生徒の本人の意思を尊重しながら支援を行った事例

1. 事例の概要

A生徒は、B中学校の通常の学級に在籍する2年生であり、学習障害（読み書き障害）が疑われている。学習上の困難さとして、特に文字に対する苦手意識があげられる。保護者から、A生徒が基礎的な学力を身に付けるための具体的な支援の申し出を受け、B中学校の校内委員会で検討し、通級による指導を提案した。しかし、A生徒の通常の学級で他の生徒と共に学びながら支援を受けたいという本人の意思を尊重し、支援を行った。

キーワード 学習障害（読み書き障害）、学習意欲の低下、通常の学級での支援、本人の意思の尊重

2. 生徒の実態

A生徒は、B中学校の通常の学級に在籍する2年生であり、学習障害（読み書き障害）が疑われている。A生徒の学習上の困難さとして、特に文字に対する苦手意識があげられ、漢字習得に困難さがある。興味が持てなければ初めから挑戦できなかつたり、結果を急ぐあまり失敗を繰り返してしまったりといった状況がある。また、A生徒は、「周囲から自分だけ特別な支援を受けていると思われたくない」という意識が強い。

3. 本事例に関する基礎的環境整備

- B中学校があるC市では、特別支援教育コーディネーターや通級による指導担当者による関係者会議を定期的に行い、その中で、基礎的環境整備や合理的配慮に関する研修を行うとともに、多様な学びの場の活用等について情報共有を図っている。【基礎1】
- B中学校では、特別支援教育コーディネーターと学級担任が連携を図りながら、児童生徒等の状況を踏まえて補助的な教材を使用してわかりやすい授業づくりをめざしている。【基礎4】
- C市では、通級による指導や特別支援学級の弾力的運用などにより、個に応じた学びの場を設定している。また、場の設定だけでなく、通級による指導や特別支援学級での支援の方法について、特別支援教育コーディネーター会議等で情報共有を図り、通常の学級の担任への情報発信に努めている。【基礎7】

4. 合意形成のプロセス

保護者より、A生徒が基礎的な学力を身につけるための具体的な支援について申し出があった。そこで、校内委員会において協議を行い、通級による指導を提案した。しかし、A生徒からは、あくまで通常の学級で他の生徒と共に学習し、支援を受けた

いと強い意思の表明があった。そこで、保護者や校内委員会メンバーによる本人との話し合いを重ね、本人の意思を尊重し、通常の学級において支援を行うことで合意した。

5. 合理的配慮の実際

- 授業の初めに学習のねらい、学習の流れを板書するようにし、情報を整理したり集中を促したりした。また、授業の途中に課題解決に向けての仲間同士の相談時間を確保するなどの工夫を重ねた。【合理①－1－1】

- A生徒との相談の上、国語と数学で、準備した別教材のワークシートに取り組むことにした。また、理科ではいくつかの単元で、休み時間等を利用し、他の生徒と一緒に学習内容を予習し、実験や観察をすることを勧めた。【合理①－1－2】

- A生徒の「自分だけ特別な支援を受けているように周りから見られたくない。」という思いを十分に受け止め、一つ一つの支援を行う際の、本人の意思確認を丁寧に行うように心掛けた。【合理①－2－3】

6. 本事例の成果と課題

学習に興味を持てるよう、あらかじめ知識を得ておくことで、授業への抵抗感を減らすことをねらいとして準備した、国語、数学、理科の学習課題は、休み時間に他の生徒と一緒に楽しめる適切な材料となった。他の生徒と共に学ぶ中で、周りの生徒たちも、その学習課題に興味を持ち、A生徒の取組に協力するようになった。

保護者とB中学校は、通級による指導といった支援策を考えていたが、A生徒の「通常の学級で仲間と共に学びたい。」という思いや、「周囲から自分だけ特別な支援を受けていると思われたくない。」という不安感などを考慮し、通常の学級でA生徒の納得する形での支援を実施している。このことが本人の学習意欲にも好影響を及ぼしている。

今後、学習の困難さが大きくなってきた時には、柔軟な学びの場の提供を効果的に行い、A生徒がいつでも学びの場を選択できるような準備が必要である。引き続き、A生徒本人を中心にした、家庭、学校、関係機関の連携のもと、より望ましい支援を進めていきたいと考えている。